



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30
- ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
- ◆会 長 / 渡辺 文夫
- ◆副 会 長 / 渡辺 頼雄
- ◆幹 事 / 依田 晋一
- ◆クラブ広報・情報委員長 / 清水 泰男

NO. 1261 平成27年1月20日



◆点鐘	渡辺 文夫 会長
◆SAA	清水 泰男 委員
◆ソング	それどころロータリー
◆ゲスト	佐々木治夫様

【会長挨拶】 渡辺 文夫 会長

会員の皆様、こんにちは

本日の卓話は、小諸市南町の佐々木病院 院長の佐々木治夫先生です。演題は「本出版. 私の経験」です。どんな内容か御期待致します。よろしくお願いたします。

今日より大寒です。大寒は二十四節気のひとつで、1月20日頃をいいます。この日から立春までの期間を指すこともあります。

大寒は「寒の内」の中でもっとも寒い時期を表します。最低気温が観測されるのも、この頃が一番多くなっています。

武道では、この頃寒稽古が行われます。また、凍り豆腐. 寒天. 酒. 味噌など寒気を利用した食物が仕込まれる時期にもあたります。

小寒は、1月6日より15日で大寒に入り、大寒より15日で立春(節分)までが、暦の上の寒の内、実際には気温の最も低い季節ですので、この季節はくれぐれもお体には十分に注意して、お互いに頑張りしたいと思います。以上会長挨拶です。ありがとうございました。

【幹事報告】 依田 晋一 幹事

1. 塩尻北RCより事務所移転について
新住所 〒399-0702 塩尻市広丘野村 1810
電話変更なし FAX 0263-53-5217
2. 週報
南佐久、東御RC
3. (株)アイクより小諸新聞

・例会終了後理事会

【本日の配布物】

週報 1259、1260号、ロータリーの友 1月号

◆ラッキー賞

NO. 10 矢島 英夫 君

◆委員会報告

奉仕プロジェクト委員会 矢島 栄一 委員長

書き損じハガキのお願い

クラブ広報・情報委員会 青松 英和 委員

ロータリーの友 1月号紹介

◆ニコBOX 両川 栄 委員

矢島 英夫君	ラッキー賞、有難うございました。
黒澤 明男君	佐々木先生の卓話、楽しみにしております。
橋詰 希望君	佐々木先生、本も頂き、卓話もありがとうございました。
前田 博志君	佐々木先生、今日はありがとう
青松 英和君	佐々木先生のご出席ありがとうございました。
美齊津 明君	いつも楽しく勉強させていただいております。これからも宜しくお願い致します。

次週のプログラム : 1月27日「ロータリー理解月間」クラブ広報・情報委員会

次々週のプログラム: 2月3日「自己小伝」中込 裕幸会員

◆【出席報告】 掛川 興太郎 委員

	会員数	出席	M・U	欠席	出席率
本日 1月20日	24	21	事前0名	3	85.71%
前々回 1月6日	24	22	事後1名	2	91.30%

【本日のプログラム】 「本出版のおすすめ」－私の経験から－ 佐々木 治夫様



本日は小諸浅間ロータリークラブの卓話にお呼び頂き、大変光栄に存じております。どうもありがとうございました。本当のところは、こうして皆さんの前でお話できるような器ではございませんので、お断りすべきところですが、矢島英夫先生から一言しゃべるようにと言われましたので、観念してお邪魔した次第です。悪しからずご了承下さい。

私が小諸市に開業したのは昭和45年のことですが、それ以前に依田耳鼻科という医院がありました。その先生が若くして亡くなられ、そのあとに勧められてきたわけですが、その先生が1冊の本も残さないでこの世を去るのは寂しいと

話しておられたのを家族が聞いており、先生の遺稿集を出されました。

これにはあっちこちに投稿された文章、俳句、短歌などの他にノートに書かれたものを集めて本を出されたわけです。この先生の兄弟は大変、優秀で大学の教授などされた方もいたと伺っており、本もいくつか出版されていたようであります。そこで依田先生は自分にそういった書物がなく寂しいと言われたものと思います。遺族の方が遺稿集を出されたのを見て感動致しました。翻って自分のことを考えれば私の家族にはそんな気の利くものはいませんので、これは自分で出しておかないか、と思ったものです。

しかし、1冊の本を書くのは不可能と考えておりました。今まで、原稿用紙20枚以上の原稿は書いたことがありません。まして、200枚の原稿など書けるわけがないと思っていました。そこで、今まで書いてきたものをまとめてみようと思いました。小諸北佐久医師会に「噴煙」という会誌があります。これは平成元年から年2回発行されており、私は毎号、飽きもせず雑文を書いて投稿しました。まとめることを思い立ったのが平成23年で、この23年間の雑文をまとめれば1冊の本になるのではないかと思ったのです。

どこに頼もうかと思ったのですが、地元の新聞社が良いだろうと思い、小諸新聞の高木社長に相談したところ快諾して頂きました。そして、柳沢由美子さんが紹介されました。そして、彼女に噴煙23年分46冊の本を渡し、これで本を作ってくれと言ったわけです。注文は弔辞、偲ぶ記など極端に個人名の出るのを除いてくれということでした。

そして、数か月後の時、ゲラが出来たので、とって一部持ってきてくれました。全部校正するのは大変なので、あとはお任せにしました。表紙は小諸から見た浅間山がよいと注文をつけました。それから一か月ほどして本が出来ました。と言って届けてくれました。

自分で言うのもどうかと思いますが、「高原の街小諸にて」というタイトルでそれに相応しい浅間山がバックに入った素晴らしい本でした。感激したものです。大勢の人に贈呈しました。この本は23年までの歴史的背景もあり、読んだ方は自分の人生と重ね合わせ、大勢の人が涙を流したと言いました。あの頃は、子供たちがいて主人もいて目が回るように忙しかったのに今は、主人も死に、子供たちも遠くに行き、一日中誰とも話さない独居老人になってしまったと、手紙を貰いました。

「ラブホテルへ往診」不謹慎なことが書いてあると思ったが、あの頃の浅間市は日本で一番エイズの多い町とテレビニュースが流れていた時代で、町中外国人女性があふれていたのを思い出すね。と声もかけられました。こうしたわけで第1冊目の本が出たわけでありました。

そのあと、思い立って1日5枚40日書けば2冊目の本がだせるなと考え実行したわけでありました。40日というわけにはいきませんでした。3、4か月かけて230ページぐらいの原稿を書き、「浅間山のふもとから」と題して出版致しました。この本で最も反響が大きかったのは、「海ゆかば」と靖国問題でした。戦時中に育ち、身内に戦死者、戦争未亡人で人生のどん底を経験してきた、人達です。この世代の人達の考えは殆ど同じであることを知りました。それから数か月、本日皆様に贈呈させて頂いた3冊目の「日々新たに」を出しました。

3冊とも小さな段ボールに1箱ぐらいの感想文をいただきました。これは予想外の感激でした。今回の本には中国藤村文学賞受賞者の感想文が載っています。嫌中派の人から中国人も日本人と余り変わらないんだ、肩の力が抜けたという手紙も貰いました。暇があったらお読み頂き、感想を聞かせて頂ければ嬉しいです。

私の本出版の経験を通して、まだ本を出したことのない方は是非1冊の本を！とお薦めする次第です。私も大勢の人から自分史を含めて何冊も自著を頂きました。真実が故に感動を覚えます。皆様も是非1冊を。書く暇のない方は新聞社に頼めばまとめてくれます。

つたない話を長々と、ご清聴頂きましてありがとうございました。